

落ちつきと躍動

応えた絵たち

こ
た

2026

2/20 [金]

3/22 [日]

休館日 月曜日(2/23は開館)、2/24
9:00~19:00 観覧無料 主催 砂丘館

砂丘館



旧日本銀行新潟支店長役宅

指定管理者:新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体

ギャラリートーク

3/7 [土] 14:00~15:30 (詳細は裏面)



「見るひと」綿高一郎さんに

「見るひと」綿高一郎さんに 応えた絵たち

Paintings that Responded to
Koichiro Wata

落ちつきと躍動

2026
2/20 [金] △ 3/22 [日]
休館日 月曜日 (2/23は開館)、2/24
9:00~19:00 観覧無料 主催 砂丘館



「落ちつきと躍動」は、綿高一郎さんから70点ほどの絵をお預かりし、撮影のため一堂に並べてみて自然に浮かんだ言葉だったが、考えてみると、10年からっと以上前に、東京の美術コレクターの人たちの集まりだったかどこかでお会いして立ち話をしたとき、綿さんのたたずまいと語り口、そして人間そのものに感じた印象でもあったことに気づく。そのときは少しお持ちの絵の話もしたのだったかもしれないが、画家の名前はひとりもおぼえていない。

それでも、私はなぜか綿さんのコレクション（求められた絵）を並べる展示をしたいと思い、そう綿さんに話した。それは、このようなたたずまいの人の、目に、あるいは心に、応えた絵とはどのようなものだろうという好奇心がむくむくとわいたからだった。

その作品群（といってもコレクションのすべてではなく、砂丘館の展示のために綿さんが選んでくださったもの）を実際に新潟で見て、最初に感じた綿さんの人の印象が、それらの絵を通して、ずっと深まり、奥行きを持ち、それこそ「躍動」しあげるのでを感じた。

どれも魅力ある絵であることに加え、絵たちは、彼らに、あるいは彼らが応えた人を語ることで、求める（購入する）という行為のもつ意味を考えさせてくれる。そのような絵たちで、冬から春へと移りゆく時期の砂丘館を飾る。

大倉宏（砂丘館館長）



ギャラリートーク 「出会って来た絵たちのこと」

綿高一郎 聞き手 大倉宏

3/7 [土] 14:00~15:30 参加料500円 定員30名

申込み 砂丘館 Tel.Fax 025-922-2676 E-mail yoyaku@bz04.plala.or.jp

申込み受付開始 2月18日 [水] 9:00~ (Fax E-mailも)

* Fax E-mailの場合は連絡先（電話番号）、人数もお書きください。

* いただいた個人情報はこの催しに関する連絡以外には使用しません。

綿高一郎（わた こういちろう）

1945年3月神戸市生まれ。小学2年生の時、明石市から大阪（八尾市）に移る。高校卒業後職を転々とする。75年結婚を機に東京へ移住。80年アサヒ絵具（クサカベ）に入社。営業、企画を担当。2002年退社（在22年）、同年PICABIA（筆の製造販売）を立ちあげる。

砂丘館

新潟市中央区西大畠町5218-1



●専用駐車場はございません。公共交通機関、または近隣の有料駐車場をご利用下さい。

●新潟駅からのバス 浜浦町線C2系統（バスターーミナル9番線）観光循環バス（同18番線）「西大畠坂上」

〈私たちは砂丘館を応援しています〉

株式会社あいし NSGグループ 新潟ビルサービス 丸屋本店 藤田金属

株式会社アトリエ・ジャム WIND 郡土の文化に親しむ会 書斎gallery 藤田 隆

図版 表面

山下大五郎「池袋北口」（上）／森幸夫「茫Ⅲ」（下）

図版 裏面

中西良「裸婦デッサン」（上）／本田金次郎「夕の海」（中左）

松田正平「朝日」（中中）／朝鮮民画「黒猫」（中右）

柄沢齊「死と変容 1-12 ハーブ」（下左）

横田海「2010 章20.」（下右）